2022　年度　　授業概要

科目名		実習ゼミⅠ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間　（2単位）	配当学年・時期	言語聴覚士科4年			必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

言語発達障害の評価および訓練に関する知識を深める。

〔授業全体の内容の概要〕

発達段階、障害特性による訓練・指導について演習を通じて学ぶ。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕

言語発達障害児に対し、客観的な評価をした上で訓練計画を立案および実施できる。

回数	講義内容
1	聴覚機能検査(障害部位との関係、オージオメータ、オージオグラム)
2	聴覚機能検査(標準純音、自記オージオ、内耳機能検査)
3	聴覚機能検査(語音検査、ハイリスクファクター)
4	聴覚機能検査(新生児、乳幼児検査)
5	聴覚機能検査(他動的検査：ティンパノメトリ、耳
6	訓練法基礎講義（1）：前言語期
7	訓練法基礎講義（2）：前言語期
8	訓練法基礎講義（3）：前言語期
9	訓練法基礎講義（4）：単語レベル
10	訓練法基礎講義（5）：理解と表現面に顕著なアンバランス
11	訓練法基礎講義（6）：全体的遅れ
12	訓練法基礎講義（7）：全体的遅れ
13	訓練法基礎講義（8）：全体的遅れ
14	訓練法基礎講義（9）：文字・数
15	訓練法基礎講義（10）：文字・数
16	評価の復習
17	発達段階、障害特性別訓練
18	2の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（1）
19	2の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（2）
20	言語獲得単語レベルで発語なし
21	5の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（1）
22	5の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（2）
23	理解と発語に顕著な差がある場合
24	8の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（1）
25	8の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（2）
26	全般的な遅滞（理解、表現可だが遅れている）
27	11の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（1）
28	11の講義に基づく演習訓練プログラム立案、実施（2）
29	療育指導について
30	まとめ

【　準備学習・時間外学習　】

【　使用テキスト　】

書籍名	著者名	出版社
言語聴覚士テキスト 第3版	大森孝一ほか	医歯薬出版株式会社

【　単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）　】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。